

ニシシマドジョウ *Cobitis* sp. BIWAE type B

【選定理由】

河川の直線化、コンクリート護岸化等による緩流部の喪失、砂礫底の減少、移動を妨げる落差工の構築、産卵適地となる細流の消失により生息数が著しく減少している。

【形態】

体長約 10cm。口ひげは 6 本。体側の斑紋は点列のものが多く、直線上の斑紋をもつ個体もいる。雄の二次性徴として胸鰭基部の骨質板が細長いくちばし状になり、この点でスジシマドジョウ類との識別が可能である。尾鰭基部の斑紋なども区別点となる。また、雄の胸鰭は雌よりも長い。

【分布の概要】

【県内の分布】

庄内川水系、矢作川水系、豊川水系等。

【国内の分布】

東海、北陸、山陰地方。

【世界の分布】

日本固有種。

【生息地の環境／生態的特性】

河川の中・下流部の砂礫底を好み、特に平瀬、淵の砂底を好む。砂によく潜り、砂中で越冬する。砂を吸い込み、含まれる底生藻類、小型水生昆虫等をこし取り食べる。仔稚魚は浅い砂泥底に生息することが多く、原生動物や藻類などを餌とする。産卵期は 4～6 月で、砂礫底に生える水生植物の根や茎に着卵される。卵の直径は 2mm、卵黄は白色で粘着性がある。受精後 2～3 日で孵化する。

【現在の生息状況／減少の要因】

庄内川水系、矢作川水系、豊川水系等に生息しているが、生息地点、生息個体数ともに多くはない。河川の直線化による緩流部の喪失による砂底あるいは砂礫底の減少、水質悪化、本流からの産卵のために遡上できる細流の消失等により生息適地が減少している。

【保全上の留意点】

本種の生息に必要な砂礫河床を保全する必要がある。河川工事においては、事後に砂礫が河床に滞留するよう緩流部を設けること、産卵時期の上流への移動を妨げる落差工等に魚道を設けるなどの工夫が必要である。

【特記事項】

中島ほか (2012) によってシマドジョウ類は細分され、中部地方の種はニシシマドジョウの和名が提唱された。

【引用文献】

中島 淳・洲澤 譲・清水孝昭・斉藤憲治, 2012. 日本産シマドジョウ属魚類の標準和名の提唱. 魚類学雑誌, 59: 86-95.

【関連文献】

君塚芳輝, 1989. シマドジョウ. 川那部浩哉・水野信彦 (編), 山溪カラー名鑑 日本の淡水魚, pp.392-393. 山と溪谷社, 東京.
中島 淳・内山りゅう, 2017. 日本のドジョウ, 224pp. 山と溪谷社, 東京.

(谷口義則)